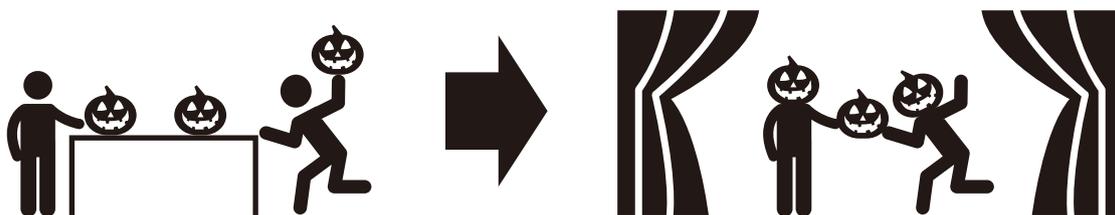


「デコレーション大作戦」 子どもたちの工作が舞台装飾となる参加型のワークショップ



事業内容

音楽や芸術、文化に日常的に接する暮らしが市民に浸透していくためには、幼少期から施設に何度も通いたくなるような環境づくりが重要となります。誰かが発表・展示しているものを鑑賞するだけでなく、その舞台や会場を共につくりあげる一員として参加できる仕組みがあると、子どもたちは勿論、その家族や友人と一緒に楽しむことができます。

例えば子どもたちがハロウィンに向けてかぼちゃのランタンを制作する教室を開き、その制作物を展示すると同時に、それらが背景となって演劇や演奏会が催されるといった一連のワークショップを企画します。ものづくりと展示、鑑賞が一体となった企画はあらゆる組み合わせが展開可能で、何度も継続することで定着していくことが期待できます。

実施することで得られる効果・可能性

既存団体や活動の連携

実現する上での課題

ものづくりワークショップと展示・演奏・舞台などを結びつけるコーディネーターと企画発案者の存在
イベントの運営担当者の存在

「とまこまい文化口座」 文化・芸術活動への参加経験が預金（記録）され利子（ポイント）がつく会員システム



事業内容

読んだ本のリストやラジオ体操の出席スタンプが貯まっていくように、自分の活動記録が目に見えるとなれば励みとなり、さらに貯めたいくなるものです。とまこまい文化口座とは、施設を利用する市民が銀行口座を開設するように自身の文化口座をつくり、施設を訪れる度、通帳記入をするようにその活動や体験を記録することができます。一定の活動記録が貯まると、利子として施設内外で利用できるポイントが付与され、例えば一回公演を無料で鑑賞できたり、文化教室に出席できたりと、次の体験へつながります。また、この文化口座では、口座間で情報のやりとりもできます。例えば、演劇に何度も通っている市民には、演劇に関連する情報が届いたり、あるいは、音楽演奏活動をしている市民に、工作サークルとの連携を提案する案内が届いたり、活動・情報・人材バンクとしての機能も備えています。

実施することで得られる効果・可能性

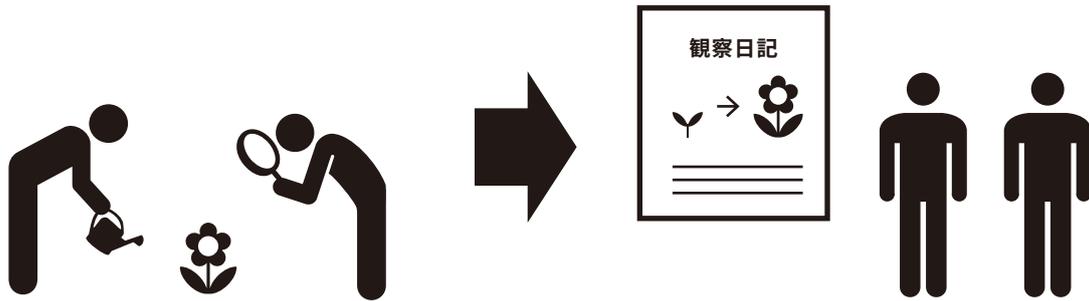
市内全域の文化・コミュニティ施設との連携

実現する上での課題

情報管理の徹底
マッチングサービスを担う人材

「わたしの絵日記プロジェクト」

施設へ足を運び愛着を持てるしくみをつくる体験型学習



事業内容

公共施設の建物や植栽は業者によって管理されることが多いため、利用者があまり気に留めることはありません。しかし、例えばその植栽に市民ひとりひとりが関わると、気になって何度も世話をしに来ることでしょう。苗から育てることで、一年を通じて四季折々の変化を観察し、楽しむことができます。それらは絵日記として記録し、展示することもできます。専門知識を持つスタッフの協力を得て、ガーデニングの講習会を催したり、植物の種類を工夫することで、工作ワークショップの材料として使用したりすることも可能となります。「わたしの」育てている植物が新しい施設の展示の一部となることで、市民が親近感と愛着を持って足を運ぶ機会を創出します。

実施することで得られる効果・可能性

植物に限らず市民が手をかけることにより愛着を持つ仕組みに発展できる

実現する上での課題

技術・管理体制（市民に加えて専門スタッフを配置する必要性）

「特別公開！裏方の世界」

本物の技術を体験し老若男女の好奇心をくすぐるバックヤードツアー



事業内容

普段は見ることのできない舞台裏を見学したり、音響や大道具など舞台の裏方が行っている仕事を体験したりするバックヤードツアーは、単なるイベントとしてだけではなく、舞台そのものへの関心も生むリピーター創出の効果があります。

バックヤードツアーを体験すると、舞台装置が実際に使われている様子を公演の場で確認したいと思うようになったり、鑑賞だけではない公演を支えるサポーターとしての楽しみややりがいが増えたりするといいます。

子どもに限らず、大人も楽しめる体験型ツアーは人気企画としての継続が期待できます。

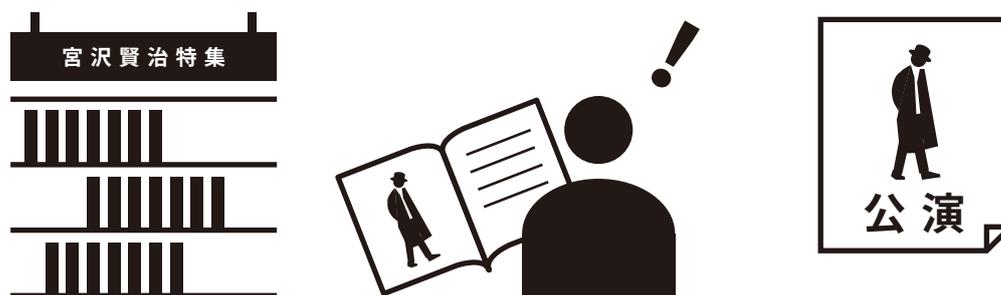
実施することで得られる効果・可能性

既存複合検討施設で既に実施しているため、体制さえ整えることで実現の可能性が高い

実現する上での課題

イベント実施者の存在

「図書室(ライブラリー)deライブ」 演劇やライブ活動の場となる体験型図書スペース



事業内容

複合施設に図書室機能があることで公演や展覧会といった特別な目的がなくとも施設へ訪れる機会が創出できます。施設独自の図書コーナーを設ける場合、蔵書はホール・美術館・展示などの機能に合わせ、文化・芸術に関するものを中心としたラインナップすることや、さらにイベントと関連した蔵書選定を行うことで機能間の相乗効果も発揮できます。例えば、公演があるときは関連するアーティストの特集コーナーを設け、子どもたちには読み聞かせや即興演劇の企画をするといった活動を行うことで、なんとなく雑誌を読み立ち寄った市民が公演のことを知り、それをきっかけに公演を鑑賞するといったことも起きるでしょう。さらに、図書コーナーそのものがライブ会場となり、蔵書と関連した演劇や生演奏が気軽に楽しめるなど、図書を媒体とした独自の企画を生み出す場となります。

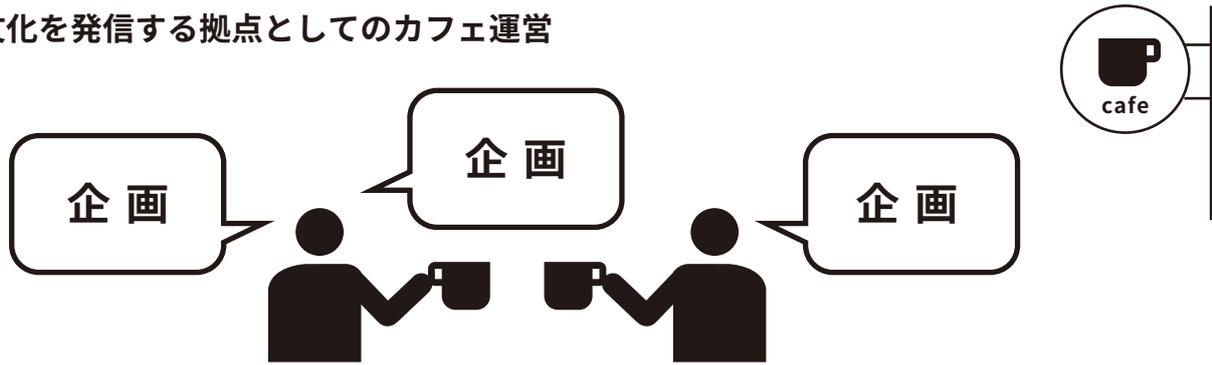
実施することで得られる効果・可能性

機能間の連携拠点として位置付けられる

実現する上での課題

独自の選書や管理をする運営主体の存在

「まちカフェ企画室」 文化を発信する拠点としてのカフェ運営



事業内容

ひとりで本を読みたいとき、公演を鑑賞した後にその感想をワイワイ話したいとき、子どもを遊ばせながらちょっと休憩したいとき、放課後に友達と勉強したいとき・・・新しい施設では、そんなふとしたときに立ち寄ることができるカフェスペースを用意します。また、カフェ運営者が海外の文化を広めるための本や料理を紹介するイベントを企画したり、施設のオープンを記念した特別メニューを提供したりと、単なる施設内にある喫茶店・飲食店に留まらない独自の活動を実践する積極的な運営方針が求められます。

実施することで得られる効果・可能性

カフェが施設の機能横断的なイベント企画の拠点となる

実現する上での課題

積極的なカフェ運営受託者の存在

「ワクワク展示室」 市民が作りつかいこなす展示スペース



事業内容

美術館や博物館のように額縁やケースに入った作品の展示方法だけではなく、市民の作品を展示する空間は市民自らが考え、作りあげることができます。展示空間を手作り形式にすることで、例えば写真を釘で打ちつけて展示したり、子どもたちが絵を画びょうで貼付けたりするなど、気軽に自由な表現が可能となります。また、他の活動やイベントなどと連動させ、人が集まる場所に展示空間を設置できるなど、展示場所自体の自由度も高めることで、展示する側も、鑑賞する側も、作品を身近に感じ、多くの市民の目に触れる機会をつくることができます。

実施することで得られる効果・可能性

多機能との連携企画

実現する上での課題

作品の管理方法